

佐賀星生学園は、登校する日が週5日と週1日の2コースあり、3年で高校卒業の資格がもらえる。高校を中退しての中途入学も受け入れ、現在は15～38歳の男女82人が通う。

開校2年を迎える佐賀星生学園校長

加藤 雅世子さん (54)=佐賀市天祐



作品展の会場で「生徒たちの成長ぶりに涙が出そうです」と話す加藤雅世子さん

取った。ただ、一般的の学校とそう変わらない座学を中心とした授業を繰り返すことに疑問を感じ、十数年勤いた学校を辞めた。

その後、県内の小中学校でスクールカウンセラーを経験。教師に何度も怒鳴られ、萎縮する子どもを目撃した。当たりした。「先生たちが忙しいのも分かりますが、教え子の話にじっくり耳を傾けなければ子どもは心を開かない」と痛感した。

とおしゃべりに興じていた女子生徒に声を掛ける。「はい。元気になりました」。大きな声で返事が返ってきた。

絵や水彩画、写真集など
150点を展示する初の作
品展が、10日まで佐賀市立
図書館で開催中。伸び伸び
と学園生活を送る生徒の様
子が伝わってくる作品ばかり
りだ。

いじめや差し障害などで
学校に行けない人たちのため
の高等専修学校「佐賀星
生学園」(佐賀市多布施)が今春、開校から2年を迎
える。さまざまな事情で学校への足が遠のいてしまった生徒たち。入学時は自己紹介もままならなかつた生

(54)=佐賀市天祐
特徴は社会性をつけて
もらう教育。生徒の半数は
不登校経験者で「自己主張
しきたり、しなさしきたりと、意思伝達が苦手」と
いう。そのため、相手の誘
いを断る方法など対人関係
の築きかたを実演で指導。
歌やダンス、美術作品の創

社会生活への
キルの獲得を目指す。
仲間外れにされるかも、
自己表現や集団行動も経験
させ、社会で必要な生活ス
キルを通して言葉を使わない
「悪口」を言われるかも…。生
徒にとって人付き合いは非
常に難しい」と加藤さん。

年ほど前、不登校経験者が通う県内の高等専修学校に就職。生徒との接したたを研究、臨床心理士の資格を

2011年4月 学園を設立した。

一どんな子にも輝く未来
があり、掛け替えのない宝物を持つている。卒業を新たなスタートに、胸を張って次のステップに進む。そんな生徒に育ってほしいですね。

社会生活への適応支える

「生徒と向き合う」信条に

一社会に出るため、高校生活や高校卒業の資格はとても重要。子どもたちが本当に必要としている教育をより一層充実させて

思っています」
1日、中途入学の3年生
6人が卒業した。来年の春
には開校時に入学した約50
人が卒業する。